

# 小石川高校ラグビー部

## 後援会会報 Vol.7

発行責任者 後援会理事長 齋藤守弘 平成 18 年 1 月発行

公式ホームページ <http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>

### 目次

#### ご挨拶

##### ・後援会会長

川口 明(昭和 42 年卒)……………2

#### 小石川高校ラグビー部より

・平成 17 年度秋季大会結果……………2

・秋季大会の模様……………2

・平成 17 年度秋季大会観戦記……………3

##### ・秋季大会で引退した 3 年生より

島崎 和徳(前キャプテン)……………4

渡辺 貴行(前 FW バイス)……………4

多久 和真(前 BK バイス)……………4

佐藤 貴子(前マネージャー)……………5

・3 年生から一言……………6

##### ・新チーム メンバーより

石黒 将也(現部長・2 年)……………6

前原 遼太

(現キャプテン兼 BK バイス・2 年)……………7

脇坂 洋輝

(現副キャプテン兼 FW バイス・2 年)……………7

並木 由希子(現マネージャー・2 年)……………7

##### ・顧問より

山田 憲永(体育科教諭)

「3 年生へ」……………8

遠藤 大輔(英語科教諭)

「3 年生へ」……………8

・訂正とお詫び……………9

・平成 17 年度新人戦について……………9

・修徳高校戦 観戦記……………9

#### 連載 OB コラム

富山 晃嗣(昭和 57 年卒)

「ラグビーが私に与えてくれたもの」

……………10

#### OB 現役プレーヤーより

野渡 寛介(平成 14 年卒)

「学生主体のラグビー」……………12

#### 小石川中等教育学校について

俵一雄(昭和 41 年卒)……………12

#### 理事会よりお知らせ

・学年幹事の設置のお知らせ……………13

・公式ホームページ紹介……………14

・平成 17 年度会費納入のお願い……………14

・後援会メーリングリスト参加のお願い……………14

・住所不明者……………14

・編集後記……………15

## ご挨拶

### 後援会会長 川口 明 (昭和 42 年卒)

テレビドラマ、映画、小説等でスポーツの良さが取り上げられることは多くあるようです。テーマとしては友情の大切さ、団結力、根性、努力等があるでしょうか。

ラグビーを説明するのに「One For All ,All For One」という言葉が使われることがあります。私はこの言葉が大好きです。学校関係、会社関係、趣味の関係、地域関係等色々な繋がりがあ、それらの人達と会いそして話をするがあっても、やはりラグビーの仲間の繋がりの深さは特別な様な気がします。これはラグビーと言うスポーツの持つ特徴からきているのではないかと思います。3K 仕事とか3K 職場とか言う言葉がありますが、ラグビーはまるでこれではないかと思ひます。きつい・汚い・危険の三つのKです。その上、痛い。しかし、それだからこそ皆で支え合ひ、助け合って仲間の絆が強くなるのではないでしようか。その為には他人を思い遣る気持ちが必要で。他人から言われなくても自分から自分を厳しく律して鍛える、そうして初めて他人を思い遣れるのじゃないかと思ひます。

皆様も夫々ラグビーの良さを感じておられると思ひますが、それらを機会有る毎に現役の生徒、そしてこれからは中高一貫校となる小石川を受験する小学生及びその親御さんに話して頂けたらと思ひます。それでも、こんな話を面と向かって高校生に話しても中々分って貰えないでしようね。

## 小石川高校ラグビー部より

### 平成 17 年度秋季大会結果

9 月 18 日 : 対 海城高校

場所 : 都立葛西工業高校グラウンド

29 - 0 (前半 17 - 0 後半 12 - 0)

9 月 23 日 : 対 都立三鷹高校

場所 : 都立三鷹高校グラウンド

12 - 33 (前半 0 - 21 後半 12 - 12)

### 秋季大会の様様





## 平成17年度秋季大会観戦記

### <1回戦 対海城高校>

南 公一郎 (平成15年卒)

9月18日、秋季大会1回戦が都立葛西工業高校で行われた。快晴の正午にキック・オフした。海城高校のキック・オフ後は相手のペースで常に自陣でゲームは展開された。試合開始後の集中力の無さは最近の小石川の課題といえるだろう。しかし、前半10分、スクラムのボールをとりバックスが外に展開しそのままウイングの小室が右にトライを決めた。その後は15分にフルバックの加藤がトライをし、19分にウイング星野からフォローに回っていたフランカーの脇坂にパスが渡りトライにつながった。その後は小石川にキャッチミスがあり試合は自陣で行われたが、何とか無失点で前半は終了した。小石川は3トライ1キックを決め17対0で折り返した。

後半は調子のよかったウイングが交代し開始された。風邪で熱があったのに無理を承知で出ていたらしい。高校ラグビーは心の持ちようであるのかなものなのだ。有力選手の交代にどうなるのかと心配したが、その予想に反して後半3分、センターの池田から脇坂に回り先制トライにつながった。その後も順調に小石川ペースと思いきや、相手からのキック処理をミスし流れが分からないまま、13分に1分間のウォーターブレイクが取られた。再開直後も集中力を持続させ、休憩直後の15分に敵陣内のラインアウトからモールで押し込みそのままトライを決めた。その後、3年プロップの西田が怪我で交代後はとところどころ個人的なプレーのよさはあったがラック中のミス、ラストパスのミス、キックミスなど惜しいところでのミスが目立った。それでも、無失点で試合が終了した。

3年生にとって引退試合の1回戦目である今回の試合は十分に小石川の力が出せたものではなかった。自分の代の経験からも言えることだが、これからを担う小石川現役生はいつでもどんなときでも最高のプレーをして後悔しない試合に

なるように取り組んでいってほしい。

### 秋季大会で引退した3年生より 島崎 和徳 (前キャプテン)

最後の大会が終わって2月が経ち、自分たちの高校ラグビーが終わったのだとしみじみ感じています。思い返せば高1の頃、これから自分はそのくらい強くなるのだろうかということばかり考えていました。そして高2のときはそれまで怪我でほとんどチームに貢献できなかった私を先輩方がキャプテンに指名してくださいました。私の高校ラグビーは怪我との闘いでした。ラグビーをやりたい。しかしできないという苦しみと闘いながら、怪我の遅れを取り戻そうと努力していたのを思い出します。最後の大会も出られず、悔しい思いをしました。

そんな私から後輩たちに伝えたいことがあります。それは、今がだめでも次があるということをおぼえず一回の練習や試合に全力を出し切るという気持ちを常に持ち続けてほしいということです。私が一度鎖骨を折ってしまい恐怖心から全くタックルができなくなってしまった時、このままではだめだと思い、もう一度骨が折れるまで全力でやろうと誓ったことがあります。あの時そんな誓いをしてなければ最後の大会までプレーできていないかもしれません。私の高校ラグビーに悔いが残っていないと言えればそれは嘘になります。しかし、あの時中途半端な気持ちではなく全力でプレーできたことを誇りに思っています。後輩のみんなにも一日一日の練習を大切に、全力でぶつかってほしいと思います。

私が新チームになったときに掲げた目標に「最後まで諦めずにトライを取りに行く」というものがありました。秋季大会での三鷹戦、負けはしましたが小石川高校は最後まで諦めずトライを取りにいきました。私はキャプテンとして全くチームには貢献ができず、試合に勝てるようなチームをつくることはできませんでしたが大会でのチームの姿を見て本当にこのチームのキャプテ

ンでよかったなあと思うことができました。上手とか下手とはではなく気持ちのこもった熱いプレーのできる最高のチームでした。新チームも最後の試合が終わったあと、全員がこのチームで良かったと思えるチームになることを願っています。

最後になりましたが、応援してくださった保護者、OBの方々、指導をしてくださった先生方、怪我ばかりの三年生を支えてくれた後輩のみなさんどうもありがとうございました。私たち三年生はこれからOBとして小石川ラグビー部の成長に貢献していきたいと思います。

### 渡辺 貴行 (前FWバイス)

秋の大会の三鷹戦は今までで一番悔しいものになった。

1年のときの秋の大会は先輩たちがやっている試合をただ外から応援しているだけでした。2年の9月、「秋の大会に出られるかもしれない。」とはりきっていました。しかし、練習試合中にボールに持って当たって倒れたら右足を骨折してしまいました。当然試合には出られませんでした。このとき怪我をして何も出来なかったことがとても悔しかったです。

そして3年の秋の大会、1回戦を勝って2回戦は三鷹でした。今年は怪我もせずに順調でした。チームの雰囲気も最高でした。しかし試合が始まって数分、左ひじの脱臼で退場してしまいました。昨年のようにまたもや何も出来ずに終わってしまいました。そのとき考えられたのはただ悔しいということだけでした。2年半頑張ってきたことが水の泡になったような気がしました。

現役の皆さん、ガムシャラになるのもいいですがくれぐれも怪我には十分気をつけて悔いの残らないように楽しくラグビーをしてください。

### 多久 和真 (前BKバイス)

ラグビー部に入って引退までの二年間半は本当にあっという間でした。

入学当初はラグビー部に入ろうなんて考えてもいませんでした。しかし先輩に声をかけられて初めて行った練習で皆楽しそうに練習していたし、先輩方が非常に優しく、引退が9月以降と聞いてラグビー部でもいいかなと思い入部を決めました。実際にラグビーをやってみると最初は何をやっていいのかわからず練習はパス練だけであまり楽しい思いはしませんでした。ただ思っていたことは早く試合に出たいということだけでした。実際に初めて出た試合は5分程度でしかもボールに一回も触らずに終わり非常につまらなかったです。ただ次の試合で初めてトライを取ったときは本当に嬉しかったです。

三年生が引退して冬の新人戦は二部ながら圧倒的な力で三連勝し、自分もチームで得点王になるなど最高のスタートを切りました。さらに春季大会もそれなりによい結果を出し、秋季大会が楽しみだと言われていました。しかしスポーツはそうあまい物ではなく、大会前にけが人が多く出てしまい自分がスタンドオフをやることになりました。初戦は楽な試合だろうという気持ちが心の中にありました。しかしやってみると最初から相手に押されっぱなしで徐々に焦りが生じ弱気になっていくのが自分でも分かりました。結局試合は負けてしまい今でもこの試合は自分のためでも負けたのだと思っていて先輩方には申し訳ないと思っています。

そして自分たちの代になりバックサバイスをやることになり、今までのようにがむしゃらにやるだけではなくみんなのお手本になりチームを引っ張っていくことになりました。教える立場になって今まで先輩たちがこんなに大変な思いをしていたのだと思いました。自分の作った練習メニューでバックスの良し悪しが決まるわけですから大変なことでした。心がけたことは、すぐにメニューを変えてしまわずに何週間かは同じメニューにして反復練習をして基礎から身に付けるようにしました。またラグビーマガジンや試合のビデオを見ていいプレーがあれば皆に話すよ

うにしていました。しかし試合はあまり勝てませんでした。理由はチームで合わせる練習の回数が少なく意思疎通ができなかったこと、またチームとして一つの目的を持って攻撃ができなかったことが得点の少なさに表れていると思います。

現役を引退して思うことはもっとミーティングをすべきだったということです。チーム全体が同じ目標持ち同じことを考えお互いを知ることができればもっと良いチームになったと思います。また、小石川は特に練習中から声が出ていませんでした。言われれば多少は良くなりましたができれば自分から声を出すべきです。今もたまたま練習に顔を出しますがしんみりとした練習をしています。一人が盛り上げるのではなく全員で盛り上げるのが理想です。声が出ていない理由としてやはり下の代が声を出さない傾向にあります。自分なんかは先輩がいても声は普通に出していました。黙ってやるよりも声を出したほうが盛り上がりやすかったからです。ぜひ今の代にはもっともっと声を出してラグビーに取り掛かってもらいたいです。

次に自分たちの代は練習において少しルーズだったと思います。例えば朝練においてもチームを強くしたいと思うなら全員が遅刻せずに集合して練習すべきであったし、昼練であっても用事がない限りすぐに校庭に出てパスやキックの練習をしておくべきでした。きっと皆が心からラグビーを好きになり上手になりたいと思えば改善できることであると思います。

自分はラグビーが大好きでラグビーができない今、日々が本当につまらないです。現役の時もテスト週間などでラグビーをしたくてたまらなくなりました。皆がその気持ちを常に持ち続けラグビーを大好きになることがチームを強くする第一歩なのです。

#### 佐藤 貴子 (前マネージャー)

正直なところを言うと、私は当初部活を楽しいものだとあまり感じてはいませんでした。部員

とのコミュニケーションがうまくいかないことも多々あり、本当に部活に出たくなくなる時もありました。私はこんなに一生懸命やっているのに何故それを理解してもらえないのだろう、私は彼らに必要とされているのだろうかといつも思っていました。

けれども、部活を続けていくうちに私のそのような考えが間違いだったことに気づきました。マネージャーの仕事をする事で今まで私は彼らから感謝という身返りを求めていたのだと思います。私の中で部員(プレーヤー)とマネージャーという境界線が必然的に引かれていたのです。しかしそれは私の思い込みであって、マネージャーも「部員」であることに変わりはないはずだと考えられるようになると、私の試合に対する見方も変わってきました。以前はただマネージャーの仕事をおこなっただけでしたが、彼らと同じように「部員」として、仲間として観ることができるようになりました。それから純粋に部活が楽しいと思えるようになりました。そして、一緒にプレーできないマネージャーだからこそ彼らに何ができるのかを考えられるようになりました。

三年間の部活の中で私は本当に様々なことを学ぶことができました。楽しくもあり、苦しくもありましたが、私の高校生活の中心は部活だったと言っても過言ではないくらいとても濃い思い出ができました。それはやはり私たちを支えて下さった方々のおかげだと思います。最後になりましたが、私たちを応援して下さいましたOB・OGの方々、先生方、又保護者の方々、三年間本当にありがとうございました。私もこれからはOGとして小石川ラグビー部がますます前進していくよう願っています。

### 3年生から一言

#### 山内 拓

ガンバ現役 フライハイ。

#### 西田 裕

努力してください。期待しています。

#### 桜中 陽介

後輩に一言 俺らが先輩から言われたことだけど、『ラグビー頑張れ。でも、ラグビーとったら何も残らない人になるな』

#### 星野 和也

I think you can.

#### 加藤 泰裕

今まででも、これからも努力 三年間ありがとう

#### 野上 耕太郎

今までどうもありがとうございました。余裕ができたなら遊びにいかせていただきます。

#### 武田 聡美

マネージャーの仕事は些細なことばかりで、もっと役に立つ仕事を自分から見つけられれば良かったです。

### 新チーム メンバーより

#### 石黒 将也(現部長・2年)

3年生が引退してから、私はしばらくそのことが信じられませんでした。3年生とは一年間半ラグビーをやりましたが、いつも先輩は優しく、何でも教えてくれて自分たちを引っ張ってくれました。しかし、今は引っ張っていかねばならない立場になりました。急なことだったので最初はどうすればいいのか、かなり戸惑うことが多かったです。先輩が引退前なら「先輩がいるから大丈夫だ」と思っていたところですが、今は「自分が先輩。自分がリードしなければ。」と心の中に常に思うようになりました。

先輩との思い出は、普段の練習や合宿、試合でした。中でも今年の合宿は特に印象深かったです。最終日、豊田高専との試合の後、全員で悔し涙を流したことは円陣を組むたびに思い出し、涙が出てきます。あの時の悔しさと秋の大会で敗退しことの悔しさをいつも心の中に秘めて1・2年生は練習しています。まだまだ新チームで出発したばかりの私たちですが先輩たちの意志を受け継ぎ、どんなチームにも負けない気持ちで練習していきたいと思っています。

**前原 遼太 (現キャプテン兼BKバイス・2年)**

新チームのキャプテンを務めさせていただく前原です。3年生が部活を引退し、1年生 11人、2年生 11人、マネージャー4人、合計 26人になり新しいスタートを切りました。

今では引っ張ってくれていた3年生が抜けてしまったので不安でした。練習をしてみるとやはりみんな3年生に頼っていたのか、以前に比べて声が小さく、活気が無いように思えました。技術面、体力面でも3年生にはまだまだ敵わないところが数多く見られます。しかし、今年の2年生は新人戦から試合にでる機会が多くあったので、試合経験は積んできたと感じています。今はまだ一人一人の意識も低く、チームとしてのまとまりもまだ無いと思いますが、これから練習をこなしていき一人一人が力をつけチーム全体で伸びていくことを考えると正直楽しみです。

以前の練習ではフィットネスやフィジカルの練習が中心だったのですが、最近の練習ではチームとして薄れていたボールを前へ前へとつなげていく意識を持ってプレーをしてもらうために4対4をフォワードとバックスで行っています。皆が常に試合をイメージして意識して1つの1つの練習を無駄にしないという姿勢が少しずつ伝わってくるようになった気がします。この意識、勝ちへこだわる執念を持ち続けて練習していかなければならないでしょう。チーム全体的に内気な人が多いのかミスを恐れてプレーをしているように感じます。また、ラグビーをしている時の顔が少し暗いのではと疑問に持つことがたまにあります。チーム一人一人が自身を持ち、伸び伸びプレーしラグビーを楽しんでやってもらいたいです。集中し、緊張が張りつめた中でやることも大切ですが、この初心を忘れてほしくはないです。

今年の目標は「都立最強」に決定しました。現状はこのような感じですが、絶対強くなります。期待しててください。

**脇坂 洋輝 (現副キャプテン兼FWバイス・2年)**

3年生が引退して2ヶ月が経ちました。僕はFWバイス兼副キャプテンに選ばれ、正直最初は戸惑いました。「自分についてきてくれるのか、みんなを引っ張っていくことができるのか。」という不安が僕の中にありました。しかし、今では毎日毎日、他の部員とどのように接し、どの練習に取り組むかを考えています。

3年生の先輩たちには、すごくお世話になりました。分からないことがあったらすぐに答えてくれ、仲良くしてくれました。正直、僕にとって3年生の存在は大きかったです。しかし3年生が引退した今、今度は僕が1年生や他の部員にとって大きな存在にならなければならないと思っています。

僕たちは新チームとしてはまだまだです。しかし、ラグビーに対してより真剣になり、厳しい練習をしていってどんなチームにも勝っていきたいと思います。

**並木 由希子 (現マネージャー・2年生)**

9月18日、3年生が引退していったその日からもう2ヶ月が経ちました。わずか9名の支柱でしたが、その柱はとても大きくたくましいものだったと感じています。

怪我により練習に参加できずとも真剣に見つめる姿勢、試合の時は少しでも選手たちの近くに...と動く気配り、例を挙げればきりが無いほど多くの場面で彼らの絆を見てきました。それはきっと、この2年半以上という長い間に培われたものなのだと思います。

以前行われた大泉高校と石神井高校との三つ巴戦では、正にそれを実感させられました。山田先生はその試合についてこうおっしゃいました。「うちはなぜ負けたか、一人でやったからだ。ボールを持った1人が15人の相手と試合をしたからだ。」と。ラグビーというスポーツはそれぞれの役割がありますが、目指すものは一緒なのだと改めて気づかせるかのように先生の目は強い

ものでした。

持久力、タックルなどまだまだ先輩方に追いつくことはできませんが、この間の試合から彼らは新チームとしてのまず第一歩を踏み出したのではないのでしょうか。それは練習風景やかけ声などから着実に感じ取れるようになっていきます。

信頼というあまりにも漠然としたことではありますが、確実に大きくなっていくそれを糧に、彼ら自身が彼ら自身の力に夢中になり、大いに発揮して行ってほしいです。

又、私たちマネージャーもそのような場面がくれるように、日々彼らのそばで支えていられるようありたいです。

## 顧問より

### 山田 憲永 (体育科教諭)

「3年生へ」

3年生のみなさん、3年間良く頑張りましたね。ほとんどが初心者ということで、高校で初めて楕円形のボールに触れたことだと思います。どこに転がるかわからずに、必死にボールを追いかけていた1年時。後輩が入部し、面倒を見ながら、チームの一員として試合に臨んだ2年時。高校ラグビーの集大成として臨んだ最後の学年。3年間で一回りも、二回りも大きく成長した(身体も心も)みんなをグラウンドで見ることができなくなり、とても寂しく感じています。もっと長くみんなとラグビーを楽しんでいきたいなと思います。

ラグビーとは奥の深いスポーツです。どうか卒業後もラグビーをプレーし続けて行ってください。今の段階では『ラグビーとは何か?』ということがわかり始めてきた頃だと思います。これからさまざまなラグビーに触れ、たくさんのプレーヤーと接することで多くのことを学ぶことができるでしょう。何年目かには自分なりの答えを見つけることになると思います(自分はまだまだ見つけていませんが.....)。ぜひ、それぞれの道へ進んでもラグビーと関わるようにして行ってください。

3年間、ラグビーを続けたという自信を胸に、卒業後も自分の進むべき道で頑張ってください。夢とは最後には自分の力で叶えるものだと思います。諦めることなく自分の夢を叶えてください。また、一緒にラグビーをプレーできる日を楽しみにしています。

### 遠藤 大輔 (英語科教諭)

「3年生へ」

今の3年生に私が初めて会ったのは、2年前でした。当時の3年生(昨年度の卒業生)には体格やスピードに恵まれたメンバーが多くいました。彼らに比べ、当時の2年生(今の3年生)は体格やスピードの点では見劣りする(当時は2年生でするので当然ですが)という印象を持っていました。けが人も多く、そのシーズンの秋の大会に出られたのは数名だったと思います。

しかし、新チームを引き継いでから3年生は大きく成長したと思います。まず自分でものを言うようになった。自分たちが最上級生なんだという意識がそうさせたのかもしれませんが、自分で考え自分の口でちゃんとものを言うようになったということはすばらしい成長だったと思います。3年生が自分の考えを言うことによって、後輩もまた成長します。このようにして日々の練習に取り組むことによって、小石川を1つのチームにしてくれたんじゃないかな、と思います。

また、「試合に出たい、試合に勝ちたい」という気持ちを表に表して練習するようになりました。目標を明確にして、それを達成するために一生懸命練習するということは勇気を必要とします。だって、いくら一生懸命練習したって目標を達成できるとは限りませんからね。それを承知の上で3年生は一生懸命練習し、チームをまとめてきたと思います。‘花園’という目標は達成できなかったですが、その達成のために全力で努力したことは誇っていいと思います。為さねば成らぬ何事も、です。

ラグビーを通じて学んだことを、もう1度振り

返って考えてみて下さい。きっと社会へ出たみんなを助けてくれるものがたくさんあります。3年間の努力が生きてくるのは、実はこれからなのではないでしょうか。楽しい人生を送って下さい。

### 訂正とお詫び

前回 Vol.6 の会報5ページ「新入部員紹介」の集合写真の順番に誤りがありました。

(誤)

下段左から 渡辺、工藤、若林、富田

上段左から 大友、鳥井、呉、木村

(正)

下段左から 大友、鳥井、若林、木村

上段左から 渡辺、工藤、呉、富田

また、マネージャーの出身校が反対になっていました。ここに訂正とお詫びを申し上げます。

### 平成17年度新人戦について

平成17年度の新人戦の日程は以下のようになっています。

1月15日：対 修徳高校

1月29日：対 科技高多摩

2月5日：対 芝浦工大高校

2月12日：対 駒沢大高校

場所：科技工多摩グラウンド

### 修徳高校戦 結果

19 - 10 (前半 12 - 5 後半 7 - 5)

### 修徳高校戦 観戦記

#### 竹井 誠 (昭和32卒)

(HP掲示板より転載、一部編集)

平成18年東京都高校ラグビー新人戦が、平成18年1月15日(日)午前10時から、科技高多摩グラウンド(通称、東電学園グラウンド)で行われ、小石川高校は緒戦である対修徳高戦を10対19で勝利し、幸先良いスタートを切った。

京王線聖蹟桜ヶ丘駅下車、多摩丘陵を切り開いた科技高多摩グラウンドは、雲ひとつ無く晴れ渡り、

風は微風。昨夜降った雨も砂地のグラウンドに程よくしみ込んで、燦々たる陽光はコートの上から暖かい。絶好のラグビー日和だ。

午前10時、修徳高のキック・オフで前半25分が始まった。

前半5分、やっと身体がほぐれた頃、小石川はグラウンド中央でのマイボールスクラムを、10番

13番 11番と綺麗に回し、左ゴールポスト

下にトライ(ノーゴール)。0対5と先行した。小

石川の動きが良い、一瞬、大量点差の楽勝か、と

思われたが、一つとられて目を覚まし、相手フォ

ワード陣の動きが俄然良くなり、15分、ゴール

前40メートル付近でペナルティをとられ、チョン

蹴りから、ノット10メートルをとられ、後退

に付け込まれ、右中間にトライ(ノーゴール)をと

られて、5対5の同点に追いつかれた。攻防は、

一進一退となり、ボールの支配率は相手が若干上

回った。タックルされた後のボールの処理がまず

い。球離れが悪く死に体の味方にパスをする。

バレーボールをやっているのかと非難が飛ぶ。2

4分、相手パスをインターセプトして、ゴール直

前に迫ったが追いつかれて潰された。チャンスは

あるが、決め手を欠くキライがある。25分、相

手の修徳高に負傷交代があり、ロスタイム相当時

間にゴール前30メートルで、ペナルティを得る。

チョン蹴りから、繋いで14番が中央ゴールポス

ト下にトライ(ゴール)。

前半の最終に5対12と、1ゴール差として前半

終了。

午前10時40分。後半、小石川のキックで開

始。

後半8分、自陣25メートル付近でペナルティ

を取られ、相手、巨漢3番1番のフォワード陣が

繋いでトライ(ノーゴール)をとられ、再び10対

12と点差を縮められ、相手の氣勢は、いやが上

にも上がり、小石川高を攻め立てた。小石川の

良かった点は、みんなが必死で防戦。タックルを

して、食い下がり失点しなかった事である。後半

20分、中央でペナルティを得て、チョン蹴りか

ら繋いで中央ヘトライ(ゴール)して、10対19と点差を広げた。だが、それからの6分間は、自陣25メートル内での防戦。ノーサイド前、3分間は、自陣5メートルでの攻防戦となったが見事守りきって、緒戦を勝利した。

得点しては、追いつかれ。又、得点しては、追いつかれ。の目の離せない試合であった。

試合を終えて、キャプテンから、「今日の試合は、満足できません。次の試合はさらに頑張ります。」との、力強い決意発表があった。

### 連載 OB コラム

今回で6回目となるOBコラムですが、今回は昭和57年卒の富山 晃嗣さんに書いていただきました。次号は昭和58年卒の清野 健一さんに書いていただきます。よろしくお願ひします。

#### 富山 晃嗣(昭和57年卒)

「ラグビーが私に与えてくれたもの」

まずは高校入学当時身長が160センチに満たず、体重も50キロもなく貧弱だった私がラグビー部に入部した訳からお話させていただきます。同期の仲間にもあまり話したことがないと思いますが、私は小学校時代に当時女子柔道のはしりで後に日本一にもなった山口香選手と同じ道場で柔道に励んでいました。今思えば山口選手の得意技であった背負い投げと小内刈りは私との乱取で会得したと自負しています。当時からちびでやせていた私は体重別でなく学年別であった小学生の大会では一回も勝った記憶がなく、あまりいい思い出もなく青畳から下りました。中学時代も野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール等自分では球技に自信があるのに、体育の授業などでやってもイマイチなのは自分の体格のせいにしていたところがありました。そしてスポーツに少し自信を無くしかけていた、高校受験対策も本格化した中学3年の秋にテレビで大学ラグビーの試合をみて、160センチそこそこの選手が190センチ100キロくらいの大きな選手

とぶつかり合い、ボールを奪い合っているのを見て、なんだか分からないけれど、このスポーツを絶対にやりたいと思い、高校の受験校選択も私立はラグビー部のある高校(早稲田実業・城北高校等(今となってみれば偶然にも高校時代公式戦で負けた2校))を選んで受験したほどでした。都立は当時学区制であった為、ラグビー部のなかった竹早高校に行く可能性もありましたが、運良く小石川に決まり念願のラグビーができることになったのでした。

そして、高校卒業後も大学時代、そして草ラグビーでしたが社会人(インターバンクリーグ)と30歳まで約15年間ラグビーをプレーしました。

そんな、私のラグビー人生の思い出とラグビーが私に与えてくれたくれたもの、(お話しするのは気恥ずかしいことばかりですが、)を厄年も終え人生も折り返し地点となった自分の現在の生活を問う意味からもお話ししたいと思います。

15年間で練習マッチを含め何試合したか数えたことはありませんが、(180試合程度かなと思います)その中でも勝ってうれしかった試合、負けて悔しかった試合、自分のベストゲーム等思い出す試合はたくさんありますが、今振り返って、自分の思い出に一番刻まれているのは、絶対に勝ちたいという気持ちで試合に臨み、試合中もずっと、勝ちたい、勝ちたいと思いつけてボールを追いかけていた試合で、それは高校3年の春の大会1回戦の早稲田実業戦です。私たち同期12名はみんな現役での大学合格を早々とあきらめていたので(そのとおりの結果になりましたが)ラグビーに夢中になっていましたが、主将だった佐藤(隆)がラグビーセンスだけでなく、くじ運もなくことごとく厳しい抽選をひいてきていました。(その前の秋の花園予選でも初戦が城北高校。1回戦敗退となりました。)そんな中での早稲田実業戦、これに勝ったら次は秋に負けた城北高校との雪辱戦、またこれに負ければ同期全員で試合ができるのが最後になるということもあって30

分ハーフ 60 分間本当に真剣に走り続けました。内容はキックオフからボールの支配率は小石川に分があり敵陣ゴール前に何度か迫りましたが、インゴールを陥れることができず、前半終了間際に P G を入れられ折り返し、後半は小石川が攻め疲れたところを逆に攻められゴールラインを割られ、残念ながら敗れてしまいました。

その後大学でラグビー部に入部し高校時代とは比べものにならないくらいの厳しい練習をして、たくさんの激しい試合を経験しましたが、不思議にこの試合のことを一番思い出すのは、試合に負けはしたけれど、当時の自分を 100% 出し切ったという満足感があったからなんだなと思っています。

さて、私がラグビーを始めたわけは冒頭で紹介しましたが、高校時代大したプレーヤーでなかった私がどうして 15 年間もラグビーを続けたか最後に書きたいと思います。

ラグビーの素晴らしさを語るのによくノーサイドの精神・オールフォアワン、ワンフォアオール、アマチュアリズム(無報酬の献身(今はあまり言われませんが))という言葉が使われますが、(もちろんそのすべてが私は大好きですが)私がラグビーを本当に好きになったのは、大学 1 年生のまだ 3 本目だったとき当時の主将に厳しく教えられたことがきっかけでした。練習試合に勝ったのに、試合後走らされ主将から、トライの後相手に対しガッツポーズをしろと。相手も試合に備え厳しい練習をしてきている。それに対し敬意をもて。お前の行為は相手に礼儀を失した行為だ。と言われました。当時は、トライをしてもそれは 15 人の力の結果に過ぎず、たまたま相手のゴールラインを越えたときボールをもっていただけだ。という精神には共感していて、サッカーのゴールのときの馬鹿騒ぎや、野球のホームランのホームイン後のハイタッチ、バレーボールのスパイクが決まったあとにコートをぐるぐる回るパフォーマンスに対しは、大げさで見苦しいとは思っていましたが(これもそのスポーツをやって

いる人に言わせれば偏見であるが)試合中に自分が得点したときも相手に対して敬意を失わないといった非常に紳士的で謙虚な精神がラグビーに流れていることを知って一段とラグビーにのめりこんでいきました。そしてその後の試合ではトライをしてもゴールキックを決めても決してパフォーマンスをすることはなくなりました。自己主張はよいことではなければ損をするといった風潮、何でも自己責任という大義名分のもと、その周りの人たちが責任回避している今の時代にそぐわない話かもしれないけれど、(最近のラグビー人口の減少と絶対因果関係があると思えますが)私はよくも悪くも偏ったそのラグビー精神をよりどころに社会を生きてきましたし、これからもそうしていくつもりでいます。

最後まで自分のラグビー人生を美化したような内容になってしまいましたが、本当に私がラグビーに対して感じたこと、ラグビーから与えられたと思っていることであり、恥ずかしげもなく、長々と続けてしまいました。

今、私は転勤で花園グラウンドのある東大阪市内に勤務しています。ラグビー観戦には大変恵まれている環境にありますので、私のラグビーの原点である高校ラグビーを観戦し、中年の疲れきった心と体にラグビー精神という最高のビタミンを補給し、そして微力ながら日本のラグビーを盛り上げていきたいと思っています。

さて、今回は私の 1 年後輩の S O で S H の私の頼りないパスを文句も言わず受けてくれていた清野君をお願いしたいと思っています。彼は唯一大学時代に試合をした相手で、菅平で、私が 2 年生のときで彼が確か早稲田の 3 本目位の S O、私はチームの S O が 3 人とも壊れていたのが急遽、初めて S O で出場し、対面に対戦しました。結果は当方がトライ 3~4 本とり勝ったのを覚えています。彼にとっては苦しい試合を披露してしまいましたが次回のこの欄をお願いしたいと思います。

**OB 現役プレーヤーより**

今回、高校を卒業してもラグビーをやり続け、明治大学のクラブチームで活躍している野渡寛介さんからメッセージをいただきました。

**野渡 寛介 (平成 14 年卒)**

「学生主体のラグビー」

ラグビーへの携わり方には多様なアプローチがあると思います。もちろん諸先輩方の多くは体育会でその名を轟かし、折りに触れ理事会・後援会を通じて現役サポートに大きな助力をたてています。私が入った大学の体育会は全国レベルで到底身体もスキルも及びではありませんでした。それでもラグビーを続けたい気持ちだけがありました。私が選んだのは学生クラブチーム。準体育会、もしくはサークル以上体育会未満という位置づけがよくされます。そこでは何よりも学生が主体。私のチームは運のいいことに大学のグラウンドで活動ができるのです。

普段は週 3 回、試合前は週 4 回ほどの練習。程度としては小石川高校の延長として考えていいかもしれません。日曜日は練習試合が多いです。(時々紅白戦もしますが)でも私は学業もバイトもその他自分のやりたいこともしたかったです。単に大学生活に対して我が儘なだけともいえます。

私のチームは約 55 年の歴史を持ち約 600 名の OB・OG に支えられている学生クラブとしては老舗の部類に入ります。チーム主体といいましたが、チーム運営に必要な諸要素である大学外で他のチームや協会との対応、大学内外のグラウンドや施設利用に関する手配、スポーツ保険申請、会計、HP 制作、広報編集、OB 間の調整はすべて現役が行います。自分達のクラブチームは自分達で支えるというのがクラブのスタイルです。サークルよりもアドバンテージが大きい分、チーム運営に関して責任が増します。またチームだけでなく公式大会の運営も学生が任意で関東学生クラブ委員会という組織を結成し、関東ラグビー協会

のクラブ委員会に属します。私は縁もあってか、チーム内では副務(大学内の調整)、広報編集、そして学生クラブ委員会として協会の仕事に携わっています。またレフリー委員会を通じてお粗末ながらレフリーのライセンスをとることもできました。自分のラグビーに対するパフォーマンス以外にも、こうした裏方を通じてチーム運営や大会作りに参画できることはプレーヤーとしてではなく、一人の学生として有意義な経験であると私は思っています。

ただ学生主体という名の自己満足に終わることなく、学生クラブは地区対抗への道が 3 年前から開かれました。大学ラグビーの大会は主に 2 つあります。お正月に行われる大学選手権と地区対抗です。地区対抗では関東地区の代表校と試合をし、勝てば正月に名古屋の瑞穂グラウンドで関東地区(今年は 2 区)代表として大学ラグビー全国大会にたてるわけです。まだ成果が出ていませんが、学生クラブも決してステータスの低いものではありません。

大学におけるラグビーというのは大きな可能性を秘めています。いずれにせよラグビーを続けたいという気持ちが前提になりますが。現役の皆さんにはこうしたスタイルもある、ということを知って頂ければ幸いです。なによりもラグビーをもっと続けて欲しいと切に願ってやみません。

**小石川中等教育学校について****俵一雄 (昭和 41 年卒)**

今年の 4 月に開設される「小石川中等教育学校」についてご報告します。

- ・昨年、学校の開設準備室が行った 3 回の説明会で約 7000 名の父兄生徒が来校したそうで高い関心がうかがわれます。

- ・この会報がでる頃には結果が出ていますが、2 月 1 日特別枠(全国枠最大 5 名)を別とし、2 月 3 日一般枠の適性検査(義務教育ですから選抜試

験ではない)は、約二千名の応募が予想され、定員の10倍1600名で足切りを行ない、小石川校舎と他の都庁施設で行なわれるとのこと。

- ・完全6年制なので途中での募集は欠員程度(昨年の白鷗高校は付属中学の扱いで高校編入2クラスあり)で、後期課程(高校)進学前に他高校に転校希望の場合は前期課程(中学)を退学してからという扱い。

- ・定員は1学年男子女子各ほぼ80名とのこと。  
中学ラグビー部員の確保が大きな課題!

- ・1単位が34時限授業で、現在の公立中学の28時限とは学習分量が違い、教科書だけではなく副教材を使用する。

- ・6年一貫校でも、前期課程(中学)の3年間は義務教育で学費は原則無償。後期課程(4年から6年)は現行の都立高校授業料程度。ただし前期3年生は全員が海外ホームステイを行なうための積立金があるので6年間で学費総額70万円程度と見込まれる。(また、昼食は原則として弁当持参)

- ・校歌、校是は小石川高校のもの継承し、校章も基本形は引継がれ、制服のエンブレムは新しくなる。

- ・6年間のうち最初の2年間で「立志期」、次の2年を「開拓期」、最後の2年間で「創作期」と位置付け「小石川教養主義」に基づく一貫教育を行いたい、優秀な児童を如何に集めるかではなく、優秀な生徒に如何に育て上げるかに注力したい、との遠藤校長の教育方針です。

- ・都立小石川高校は、今年から1学年4クラス160名と従来に比べ半減します。6年後に中等教育学校一期生が6年生になるときに「都立小石川高校」は無くなります。今年以降の高校のラグビー部員確保が大きな課題!

みなさま、どうか、ラグビー部後援会へのご寄付(会費納入促進)を通じて、中学ラグビー部創設、高校ラグビー部存続への資金のご支援を是非お願いいたします。

## 理事会よりお知らせ

### 学年幹事の設置のお知らせ

平成15年度より連絡体制強化のため、学年幹事を作りました。以下のように各学年1名、ないし2名の方々になっていただきました。まだ学年幹事が決まっていない学年もあります。なっていた方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にあります連絡先までご連絡ください。

昭和50年卒	
昭和51年卒	小泉 良紀
昭和52年卒	平 耕一
昭和53年卒	本澤 豊
昭和54年卒	渡辺 将
昭和55年卒	新保 泰広
昭和56年卒	矢島 秀一
昭和57年卒	森林 滋
昭和58年卒	
昭和59年卒	渡辺 豊
昭和60年卒	
昭和61年卒	道家 竜馬 花島 毅
昭和62年卒	原 敬一郎
昭和63年卒	中村 浩一
平成元年卒	嵯峨山 聖基
平成2年卒	井上 浩志
平成3年卒	栗村 賢司
平成4年卒	
平成5年卒	菅原 賢
平成6年卒	尾崎 公律
平成7年卒	浜田 尊之
平成8年卒	
平成9年卒	
平成10年卒	
平成11年卒	山崎 陽一郎
平成12年卒	武藤 拓馬
平成13年卒	島崎 将成
平成14年卒	川崎 智康
平成15年卒	斎藤 十五 南 公一郎
平成16年卒	木村 啓介

(敬称略)

## 公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは

<http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>です。ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。1 度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

## 平成 17 年度会費納入のお願い

今後も後援会活動を充実させていくため、年会費の納入をお願いします。

また、同時に寄付も募集しています。年会費と同時に お振込みください。ご協力よろしくお願ひします。平成 16 年度会費未納入者の方で今年度会費額を超えて納入していただいた方は、超えた分を平成 16 年度会費分とさせていただきます。

年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。ただし、満 70 歳以上の会員は会費の徴収を免除するほか、名誉会員からは会費を徴収いたしません。

まだ納入されていない会員の方は、この機会にお振込み頂きますようお願いいたします。

会費振り込み方法は以下の通りです。

郵便局

口座番号：00100 - 0 - 591395

加入者名：東京都立小石川高等学校ラグビー部  
後援会

銀行

みずほ銀行 駒込支店

普通預金

店番号 559 口座番号 0451272

小石川高等学校ラグビー部後援会

## 後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを運営いたしております。参加希望の方は、下記の URL にアクセスしていただくか、又は連絡先にご連絡をしていただきますよう、お願いいたします。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/krc-koen/>

## 住所不明者

(敬称略)

卒業年	氏名
昭和 26 年卒	森本 龍幸
昭和 27 年卒	浅川 幹雄
昭和 28 年卒	藤井 總明
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	小林 庸治
昭和 34 年卒	堀井 昌博
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	江口 次郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦
昭和 42 年卒	中村 善昭
昭和 43 年卒	吉田 隆治
昭和 44 年卒	内藤 清
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 47 年卒	野口 直子
昭和 48 年卒	村田 伸一
昭和 49 年卒	武藤 郁子
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 53 年卒	清水 潤子
昭和 53 年卒	菊地 昭仁
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	新保 泰広

昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	阿部(高橋) 秀子
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	志田 治人
昭和 59 年卒	木内 俊直
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 60 年卒	奥津 勝
昭和 60 年卒	須田 大介
昭和 60 年卒	高橋 努
昭和 60 年卒	佐藤 修
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 61 年卒	嵯峨山 高志
昭和 61 年卒	市田 太一
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 62 年卒	荒井 健次
昭和 62 年卒	山田 二郎
昭和 62 年卒	五十嵐 雅祥
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 63 年卒	伊藤 誠
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	東野 武人
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	田代 安史
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也
平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	橋本 智
平成 3 年卒	南條 正明
平成 3 年卒	山畔 智身
平成 3 年卒	山田 裕之
平成 5 年卒	工藤 崇
平成 5 年卒	鬼久保 大輔
平成 5 年卒	野田 秀和
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 7 年卒	榎 達也
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	吉川 直美
平成 9 年卒	井口 敦
平成 10 年卒	安田 大成

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

### 編集後記

3 年生、本当にお疲れ様でした。これからの人生で、3 年間で身につけたことがきっと役立つと思います。1、2 年生は大会でさらに良い成績を残せるように頑張ってください。

小石川は平成 18 年度から中高一貫となるわけで部員の減少が起こる事は明らかです。今後は OB としての更なる貢献が求められていることと思います。また、日本は 2011 年のラグビーワールドカップ誘致に失敗しました。今後日本のラグビー界をさらに発展させるためには、日本のラグビー人口を増やすことが不可欠だと思います。3 年生も高校を卒業しても、どこかでラグビーを続けて行って欲しいと思います。

本報の編集にあたっては、年末年始でお忙しい中、原稿執筆などにご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

(編集担当：南 公一郎(平成 15 年卒)

木村 啓介(平成 16 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

<連絡先>

武藤拓馬(平成 12 年卒)

住所:〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail: brief\_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 18 年 8 月発行の予定です。